

## 02 | 不足

# 診療制限・休診や入院の休止 安心して子どもを産みたい 育てたい親に広がる不安

### 医師不足による診療制限 常勤産婦人科医が不在に

市立病院では、全国的な医師の遍在や不足の影響を受けて、転属などによる常勤医師の不足が深刻な問題となつています。このため、診療制限を実施せざるを得ない状況となつており、米谷病院の外科は18年9月から診療を休止。佐沼病院の小児科は外来の夜間・休日の診療を18年5月から休止し、入院についても同月から休止しています。

また、佐沼病院の産婦人科では、18年4月から他地域からの里帰り出産の受け入れを休止し、危険が伴うと思われる出産は大崎市民病院などの高次医療施設に紹介していました。さらに、今年8月に一人いた常勤医師も転属となったことで、9月から市立病院での分娩取り扱いを休止。市内での分娩は開業医の結城産婦人科医院（湊敬一院長）だけという状況となりました。

ただし、佐沼病院では妊婦健診や婦人科の診療などを行う産婦人科外来は、常勤医師が不在となった9月から、米谷病院では東北大学病院からの医師派遣協力で、毎週水・金曜日の2回診察を受けることができます。また、風邪やけがなど小児特有の病症でなければ、そのほかの市立病院や開業医でも受け付けています。このように、緊急時以外の市内の小児医療については、一定程度の体制は整っています。

から大崎市民病院の医師派遣協力により、毎週水・木曜日の2回実施しています。

### 県が産科医集約化を決定 大崎市を拠点に体制整備

全国的に深刻化する産科医不足の対策として、国が示した拠点病院への医師の集約化について、県は今年10月、その方針に沿った形で「集約化」を決めました。

これは、分散している医師を複数の産科医がいる病院に集約し、妊婦健診と分娩を行う「連携強化病院」に指定して、医師の負担軽減や診療の高度化を進める計画です。

佐沼病院では、この集約化によって大崎市民病院からの医師派遣により、本来常勤医師がいらないと設置することができない助産師外来を設けることができるようになります。

### 不安が増す小児医療 緊急時は近隣医療圏へ

産科の医師不足問題とともに、医師数減による外来の夜間・休日の診療休止や入院休止を行っている佐沼

病院小児科の現状は、小さい子どもを抱える親には深刻な問題です。

万が一、夜間や休日に子どもが小児特有の病気になった場合、頼りにするのはやはり専門病院。しかし、その緊急時に市立病院では小児科の平日夜間、休日の診療は対応していないため、近隣医療圏の石巻市や大崎市の救命救急センターに頼らざるを得ません。

平日夜間や休日当番医が小児科医でない休日のときには、子どもを診療する専門医が市内にはいないのが現状です。

### 限られた医師数で 地域医療を支えるために

小児科の救急医療体制が弱体化している最大の要因といえるのは、医師不足によるものですが、登米市だけがこのような問題に直面しているわけではありません。

現在、医師の偏在などで地域医療の在り方が問われていますが、県内はもろろん全国の都市部以外では、登米市と同様に医師不足の問題を抱えています。少ない医師数で地域医療を支えなければならぬというところは、その医師が過酷な勤務を強いられることとなります。医師の努力によるところが大きい現在の地域医療体制の維持。わたしたちもできるだけ、医師の負担を減らすような受診を心掛けることが大切ではないでしょうか。

外来診療などの一次医療体制は整備されているとの理由からです。

一方、平日夜間、休日の小児専門の救急については、仙台市急患センターと石巻市夜間急患センターの2カ所だけで受け入れていましたが、県立こども病院と国立病院機構仙台医療センターで新たに対応できるように計画を進めています。

## Interview — まちの声 —

### ■出産前に子育ての支援メニューの紹介を



加藤 夕子さん・26歳  
(迫町八幡)

1月に第1子を出産します。嫁ぎ先の市内での分娩を考えましたが、佐沼病院で産めないうえ、実家の近くにある開業医で産む予定です。少子化と騒がれているのに、産婦人科医が少ないのはおかしいと思います。産後については、市内の小児科で安心して診療を受けられると思いますが、どのような子育てに関する支援メニューがあるか分からないので、出産前にいろいろ教えてもらおうと助かります。

### ■小児医療は市内の開業医で安心して受診



佐藤 加奈恵さん・36歳  
(石越町第十二区)

第3子を出産したばかりですが、3人とも実家がある栗原市の開業医で出産しました。産婦人科の医師は数少ないのに、いつも大勢の患者を診察しなければいけないので大変だと思っています。産婦人科医のなり手がいない中で、今の産婦人科医がいなくなったらどうなるか不安です。また、小児科については市立病院に入院することはできませんが、市内の開業医でいつも丁寧に診療をしてもらっています。

### ■地元出身の医師に声を掛けて招致活動を



永浦 悦子さん・56歳  
(南方町沢田)

孫は現在一人ですが、娘は第2子を生もうにも佐沼病院では産めません。都会には医師がたくさんいるはずなのに、田舎では医師不足で大変です。今後医師を目指す学生には、「困っている地域や人を助けたい」という気持ちになって、勤務先を考えてもらいたいと思います。また、親戚に仙台市の病院に勤めている医師がいますが、そのような地元出身の医師に積極的に声を掛ける招致活動を進めてほしい。



昨年中に市立病院へ搬送された人数が最も多い佐沼病院。1日当たり3.3回の救急搬送を受け入れています

平日夜間、休日に子どもが急に発熱したり、けがをしたりした場合、すぐに受診させた方がよいのか、様子を見て大丈夫なのか迷ったときには、まず「こども休日夜間安心コール」に電話をかけて相談をさせていただきます。経験豊富な看護師が対応します。

### 平日昼間の小児科の診療は 市立病院と開業医で安心に

平日昼間であれば、佐沼病院をはじめ、市内には小児科を専門とする医師がいる開業医が2カ所（八木小児科医院（八木恒夫院長）・沼倉小児科医院（沼倉碩彦院長））あり、専門常勤医師による診察が受けられるほ

**宮城県こども休日夜間  
安心コール**

☑プッシュ回線の固定電話からは局番なしで  
**#8000**

☑携帯電話、プッシュ回線以外の固定電話などから  
**☎ 022 (212) 9390**

※お子さんが急に発熱したり、けがをしたりした場合など、経験豊富な看護師が電話対応します。